

# S なごや「聖歌」だより 10月号 20

## 目で見える聖歌

### みんなで一緒に！その3

# 行進

正教会の儀式ではさまざまな行進が行われます。復活祭や受難週の十字行、神現祭の大聖水式、洗礼や結婚式でも洗礼盤や中央の台の周りを回ります。歌いながら行進します。

今では聖職者が代表して行いますが、祭の晩禱のリティヤに向かう行進、聖体礼儀の聖入も教会全体の行進です。

もともとは実際に聖堂へ向かう行進や、場所移動のため行列でしたが、私たちが神の国へと向かう行進でもあります。「ハリストス救世主や、」と歌いながら夜道を歩けば、その向こうにはまばゆい祝いがあります。洗礼の日、婚配の日、新しい神の民としての歩みが始まります。聖体礼儀の小聖入のとき、私たちの教会は天の国へと昇って行き、天使とともに「聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ」と至聖三者の神を讃える歌を歌います。

私たちの行進は神の国への永遠の歩みです。



小聖入 (OCAのホームページから)



復活祭十字行

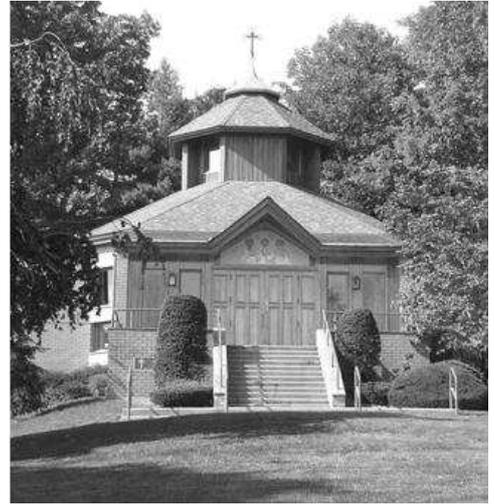
洗礼



# ウラディミル神学校の聖歌研修

マリア松島純子

6月22日から1週間、ニューヨークのウラディミル神学校で開かれた研修会に参加してきました。ここはダニイル府主教座下を始め、戦後多くの神品が学ばれたところで、この秋から名古屋教会出身のマリークラブサドルさんも入学されました。毎夏開かれるこの研修会には全米から70人ほどが参加し、牧会と宣教のためのグループと聖歌のグループに分かれ、朝7時半の早課の祈りに始まって、食事と晩課をはさんで夜9時半までびっしり講義と実習がありました。初めての英語の聖歌、英語の授業にとまどうことも多かったのですが、実り多い1週間でした。



## 1. 聖堂と祈り

ウラディミル神学校は市中央駅から電車で北へ30分ほどの閑静な住宅地にあり、広い敷地には小川が流れ、木々の間をリスが走り回っています。そのほぼ中央の小高い丘の上に聖大ワシリーと神学者聖グリゴリー、聖金口イオアンの3人を記念した聖堂があります。

聖所の広さは名古屋教会の1.5倍ほど、神学校自体は夏休みに入っているのでも学生はわずかで、研修会参加者の他には学内に住んでいる方や近隣の人々などでしたが、子供が多くなごやかな雰囲気でした。

正面のイコノスタスは日本の物に比べると、ほとんど素



通しで至聖所の様子がよくわかります。さらに、聖変化の部分は、聖歌隊が「主や爾を崇め歌い」を歌い終わってから司祭が祝文を読み始めました。普通は聖歌に隠れて聞こえませんが、聖体礼儀の核とも言えるこの司祭祝文を共有しようとする試みの一つと思われました。

聖堂の両側に聖歌隊席があり、参加者はパート別に左右聖歌隊に分れて立ちました。アンティフォン形式で左右交互に、男声女声に分けて、あるいはトリオやソロの部分に続いて全員でリフレインを歌うなど、さまざまな歌い方を楽しみました。木と白壁を基調にした聖堂のドームに歌が行き交い響きあい、一体感のある祈りが行われました。

曲目に関しては新しい作品も随分取り入れられているようでしたが、聖体礼儀のアンティフォン、早課晩課のトロバリ、スティヒラなど八調のメロディをベースにしたものは日本でもおなじみのものでした。不思議なことに楽譜を見るよりも、歌詞だけを見て聞き覚えのあるメロディに当てはめて歌う方がよほど楽で、内容がよくわかりました。逆に一番難しかったのが単調な「信経」や終わりの「ヘルビムより尊く」で、早口言葉のようでついてゆけないのです。私たちも慣れているからと急がないように気をつけねば...と思いました。(つづく)

## お知らせ

色々な形で聖歌練習をやっています。お待ちしております。

**毎月練習日第二日曜日(代式祈禱の日)**

今月は代式祈禱の日がバザーなので練習日はありません。

**次回は11月9日(日)**

**聖歌基礎からレッスン(毎月1回火曜日)**

**今月は10月7日(火)**

16:00~

## ★ホームページのご案内★

もう少し詳しく  
東方正教会の聖歌

<http://www.orthodox-jp.com/maria>

なごや聖歌だよりのホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

編集後記:

ある時、お葬式の出棺の「聖天主、聖勇毅」が聖体礼儀の「聖なる神、聖なる勇毅」と同じ歌であることを知りました。花でいっぱいの棺の行進は天国への凱旋に、悲しい別れの歌は天の国への喜びの歌に変わりました。いつか復活の日にまた会える、そう信じられる、正教会でよかった!と思いました。